

五戸総合病院での研修を終えて

(平成30年10月研修医)

大阪市立大学医学部附属病院

初期臨床研修医 阿部 愛

私は一ヶ月間、青森県での地域医療研修を希望し、五戸総合病院外科で研修させていただきました。大阪府内の病院での勤務経験しかなかった私にとって五戸総合病院での研修は驚きの連続でした。

まず最も驚いたのは患者さんの数が多いこと、それに対する医師の数が少ないことです。研修初日から、病棟の患者さんを全員みることとなり、30人ほどの患者さんの病状を把握することから始まりました。自分なりに作成した表を見ながら病棟を回診し、会話することで次第に病状は把握できるようになりました。方言が聞き取れず、会話するのは難しかったのですが、こちらから積極的に質問することで患者さんの状態を聞き取ることはできました。

そして、さらに驚いたのは、外科であるにも関わらず、内科疾患の患者さんも多数入院されていたことです。手術症例でないのであれば他科に紹介するものだと思っていましたが、五戸では血液疾患も含めほとんどの症例を診ていました。断ることはせず、患者さんが必要としている医療をすべて提供するという姿勢が、地域医療ならでの医療の形だと感じました。

また、研修医という立場ではあるものの、たくさんの医療行為を経験させていただきました。指導医の先生方の熱心なサポートのもと、今まで自信のなかった手技や、大阪ではあまりさせてもらえなかったことも経験することができました。研修医というと、大学病院では特に実際に経験できることが限られていたため、とても貴重な経験でした。

通常業務以外では、訪問診療も同行しました。訪問診療では在宅や、老人ホームに行き、聴診やバイタルの測定、食事摂取状況の把握など、基本的な診察をしました。交通の便が悪く、通院が困難な患者さんにとって、基本的な診察であっても、定期的に患者さんのもとへ医療スタッフが出向き健康状態を把握することがいかに大切かを実感しました。

一ヶ月という短い期間でしたが、五戸総合病院での研修を通じて、たくさんのことを学び、感じることができ、一ヶ月とは思えないくらいの濃密な時間を過ごすことができました。

外科の安藤先生、小林先生をはじめ、同期の研修医、病棟の看護師さんや、事務の方々、患者さんや、患者さんのご家族の方々など、お世話になりありがとうございました。とくに、安藤先生、小林先生には一から丁寧に教えていただき、本当に感謝しています。

必ずこの経験を活かして、今後も一層努力していきたいと思ひます。